2014年（平成26年）
第81号
（9月1日）

平安月報
The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

世界の子どもたちに“ゆめ”が届くように　～親子で取り組んだポッケを発送～

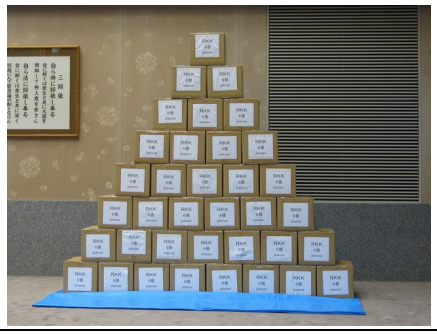
８月２１日、５月から取り組んできた「ゆめポッケ」の発送式が行われました。今年から『親子で取り組むゆめポッケ』と打ち出され、家族が協力して作り上げた「ポッケ」を持ち寄り、この日に東京に向けて発送されました。

親子で一緒に紙芝居を通して、ゆめポッケ目的や取り組み方を学び、さらに今年アゼルバイジャンに渡航し、現地の子どもたちにポッケを手渡されたＩさんから説明があり、子どもたちも心を込めてポッケを作ろうと取り組んできたようです。

親子一緒に作ったポッケの中に、子どもがお小遣いで買った物や、おばあちゃんからもらった物などを詰め、お母さんと一緒にメッセージを書いたりと、多くの家族の方々の協力によって進められました。

発送式では、ピラミッド状に積まれたゆめポッケの前で、子どもたち自ら「無事に届くように」と願ってご供養を行いました。そして、みんなで玄関まで運んでいきました。

“ゆめポッケ”キャンペーンを担当した青年婦人部長はこの運動を通して「これからも、親子で世界のいろんな状況にある子どもさんたちに心を寄り添えるようになりたい」と語っていました。



神仏に手を合わせ　笑顔で元気な子どもたち　～ニコニコキッズフェアー～

夏休みの小学生たちを対象に、７月３０日、８月３日、９日、12日、21日の５日間、京都教会において「ニコニコキッズフェアー」が開催されました。昨年試みと実施され、好評であったところから、今年は本格的に行われました。

内容は毎回盛り沢山で、トイレ掃除や庭の水撒きも行いました。主催した少年部長は「子どもたちは本当に可愛いです。しかも『神仏に感謝し、礼儀正しく、みんなに親切にできる』豆菩薩さんたちです」と、楽しいそうに話してくれました。

時々刻々

先月京都では、週末になると雨が降るという日が続きました。その中で夏祭や地蔵盆など様々な行事が行われました▼恒例の地蔵盆も予定通り行われていました。子どもたちの元気な姿は天気に関係なく、周りを喜ばせてくれます▼地蔵盆とは、地蔵菩薩の縁日で、お盆の期間中でもある八月二十四日前後に行われる地蔵菩薩の祭のことです▼町内でこの日にかけて地蔵の像を洗い清めて、お供え物をしてお祀りします▼お地蔵さんの祠の周囲には、名前付の提灯が多く飾られます。京都では子どもが生まれると、その子の名前を書いた提灯を奉納します▼お坊さんによる読経に合わせ、大玉が回ってきたら願いごとをする「数珠回し」も定番です▼新たに引っ越してきた人が町内デビューするのに、地蔵盆は格好の場です。こうして、町内のコミュニティーが維持されていくのです。

今月のことば　～言葉が人をつなぐ～

渉外部長　宮地　啓安

２週間前の広島市の土砂災害で亡くなられた方のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

３年前の東日本大震災以来、台風や大雨などの災害が各地で起こっています。いざという時に備え、今月は各地で防災訓練が行われています。

災害が発生した時に大切なのは人と人とのつながり・絆だと言われています。しかし最近は、携帯やスマホの普及で、メールがコミュニケーションの手段となり、相手の顔を見ることなく、一方的に自分の言いたいことを書いて送る.....　これでは、人と人のつながりが希薄になるのでは、と心配してしまいます。

佼成誌９月号の会長法話は**「言葉が人をつなぐ」**です。地球上のすべての動物の中で、人間だけがもっている『言葉』。この言葉の大切さを説かれています。

前半の**「神仏から託されたもの」**では『言葉』は神仏からの贈り物であり、私たちが言葉を頂いたのは、**周囲に思いやりの言葉をかけ、人々を幸せに導くこと**を託されたからだと教えて頂いています。

私たちは言葉を使えるのは当たり前と思っていますが、言葉があったおかげでお釈迦さまの教えが連綿と伝えられ、私たちが人間らしい生き方ができているのだと思うと、『言葉』の有り難さを再発見です。

また、仏教では「自分に具わった**智慧にめざめ、慈悲の心**をもって生きるときに、真に生きがいある人生を歩めると教えて」おり、そこに救いがあるとおっしゃっています。

なかなかこのように思えず、普段は自己を主張するために言葉を使っているケースが多いのではないかと思います。今までも「和顔愛語」をモットーとしてきましたが、本来はそうするように神仏から託されたものだという自覚はなかったなと反省です。

後半は**「心に届く言葉とは」**です。神仏に生かされている自分であるという自覚ができれば、自然と**感謝の心、謙虚な心をもって発する『言葉』**によって、人と人の心をつなぐことができると説かれています。

ただし「いっていることとやっていることが一致しているかどうかということに、言葉が相手の心に届くかどうかがかかっている。……**人が信ずるに足る言葉と、発するその人がどのような生き方をしているかによって、言葉が相手の心に届くかどうかが決まる**」と付け加えてもらっています。

そして、「信」の字は「人」が「言う」と書くことから「どのような言葉が大事かではなく、どのような自分がその言葉を発しているのかという点（が大事だ）」と教えて頂きました。

先日、30 年ぶりに学生部時代に共に修行していたＯさんと会いました。Ｏさんのお父さんが亡くなられ、お参りさせて頂いたことがきっかけでした。

結婚相手の実家が他の信仰をしていたので、佼成会とは、30 年以上離れていました。しかし、父親が亡くなられたので、そのご霊前で久しぶりにご供養をされたそうです。

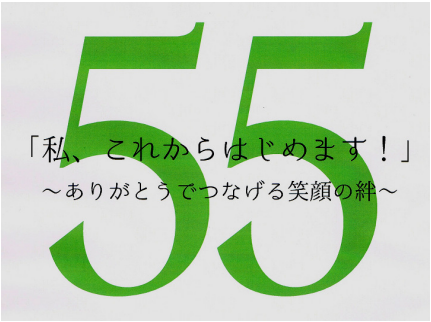
Ｏさんが言うのには「大好きな父が亡くなって、もう一度法華経に戻ることができました。ちょうど、狂子良医（おうじろうい）のたとえのようです」と。久しぶりにお経にふれられたことが、よほど嬉しかったようです。

ご法の仲間として、共に語り合い、共に教えを学び、お互いの絆が結ばれていたおかげさまで、時が経っても、場所が離れていても、すぐに打ち解けて話ができました。

今月は、周りから「信頼」されるように言行一致に注意し、ふれあった人に喜んでもらえる「言葉」かけに努めてまいります。

合掌

おしらせ　10月19日に『京都教会発足 55 周年記念式典』が実施されます



10 月 19 日（日）午前９時から、京都教会において、発足 55 周年記念式典が開催されます。

「私、これからはじめます！」～ありがとうでつなげる笑顔の絆～をテーマに、開祖記念館館長の庭野皓司（にわのひろし）氏による記念講話が行われます。

また、タイムカプセル大作戦と称して、一人ひとりが 55 周年を期して、これから取り組んでいきたいことを用紙に記入して、60 周年まで保管するという事業が行われます。

神と仏と日本のこころ　～第11回奈良県宗教フォーラムに参加して～

８月30日（土）、奈良・春日大社にて奈良県宗教フォーラム実行員会が主催し、奈良県、奈良市が後援して、「第11回奈良県宗教フォーラムが開催され、京都教会から５名が参加しました。

フォーラムに先立ち、13時から春日大社の本殿で、神道・仏教・立正佼成会・天理教の代表者が各教団の作法によって平和の祈りを捧げました。

14 時からを公開講座では、昨年の伊勢の遷宮にちなんで「神と仏と日本のこころ～大和と伊勢～」をテーマに二人の講師による講演が行われました。

一人目の皇學館大學教授・白山芳太郎氏（下左）から「伊勢の遷宮考える」と題し、伊勢神宮のことについて講演がありました。大和朝廷時代に伊勢神宮が設けられ、遷宮が始まった経緯の紹介などがありました。

二人目は関西学院大学文学部教授・西山克氏（下右）で、「伊勢の神仏習合を考える」と題し、正歴寺本伊勢曼荼羅図から読める、初期の伊勢神宮の状況をひも解いてもらいました。

提唱者の言葉に学ぶ　～明るい社会づくり運動とは～

９月６日（土）、明るい社会づくり運動「全国集会」が開催されます。提唱者の立正佼成会初代会長・庭野日敬氏の「明社」についての法話を紹介します。

■1970年３月

明るい社会づくり運動はだれもが参加できます。また、そういうものでなくてはいけません。まず身近な隣近所から行動を起こしていくことが大切です。信仰をしているいないにかかわらず、社会を明るくしていこうということから友だちになる。その中で信仰している人が率先して町のためになる行いをしていくならば、心ある人が『私も参加させてほしい』ということになると思います。

■1971年８月

人間社会をほんとうに平和にするには、心の面と形の面、この両方から推し進めていかなければどうにもならないのです。われわれが仏教を学び、信仰し、実践し、布教するのは、心の面からの平和活動であり、明るい社会づくり運動は、形の面からの平和活動であります。

ですから、内なる信仰と外への活動、個の救われと人類の救われを、別なものに考えてはならないのです。あくまでも同心円です。物心一如の同じ中心から広がっていく救いの環であります。

■1995年５月

阪神・淡路大震災では、被災した人たちが励まし合い、助け合う姿がそこかしこで見られました。また、全国から救援物資が山ほど寄せられ、それを被災者に届けるために、若い人たちがボランティアとして精いっぱい働いていました。私には、どの人も菩薩のように見え、仏さまの子が走りまわっているように思えました。

■1974年８月

世の中には、宗教者以外にもたくさんの人が、世界の大調和を希求する心を持ち、みんな一緒にしあわせになりたいという願望をいだいておられるのです。

ただ、そうした“心ある人びと”も、バラバラに存在し、個々の胸の中に希求や願望をいだいておられるだけでは、現実に世の中をよくする力となって動き出して来ないのです。そこで、わたしども信仰者が率先してそうした機会をつくり、そのような力を一つに集め、世の中をよくするエネルギーとして動き出させようと願って始めたのが、『明るい社会づくり運動』にほかなりません。

■1975年11月

明るい社会づくり運動というのは、皆さんからすぐに『いいことをやっている』と言われるものではないと思うんです。下積みに徹する長い努力が必要ですね。一見、目に見えない運動のようですけれども、それでいて、いつの間にか、その周囲に『自分の体を使わせてもらって世の中を明るくしていかなくてはいけなかったんだなあ』と考え、そういう行動を起こして下さる人がたくさん生まれていくのです。

■1978年11月

何でもない細やかなことでも、一つひとつを大事にして、時間をかけて積み上げていくことが必要です。ところが世の中には、肝心の土台づくりをそっちのけにして、天下国家ばかりを論じていることが平和につながるんだと思いこんでいるのは人がいることは困ったことです。

朝、道路の清掃を続けているうちに、自分もあの人の真似をしてやってみようという同じ気持ちのものであってほしいと願っているんですよ。

明るい社会づくり運動に取り組む京都の仲間たち　～京都地区明社の紹介～

京都における「明るい社会づくり運動（明社）」は、各地区明社と平成 19 年に発足した京都連絡協議会によって推進しています。同協議会の構成員は、各地区明社と未組織地域の代表者および明社に賛同いただいている個人や団体で構成されています。

運動の主体は、各地区明社が取り組むものとしており、協議会は全国明社との連絡窓口や広域活動のセンター的な役割を果たしています。各地区明社が合同で実施する事業としては、①祇園祭宵々山・宵山のゴミ分別回収ボランティア、②赤い羽根共同募金、③歳末助け合い募金を行っています。

また、各地区明社では、それぞれの地域にあった取り組みを推進しています。以下に、それぞれの取り組みを紹介します。

京都連絡協議会の構成メンバー

地区名	包括地域（未組織の地域を含む）
京洛明社	京都市北区・上京区・左京区・東山区
中央明社	京都市中京区・下京区・南区
右京明社	京都市右京区
伏見明社	京都市伏見区
山科明社	京都市山科区
洛西地区	京都市西京区
宇治・城陽明社	宇治市・城陽市・久御山町
乙訓明社	向日市・長岡京市・大山崎町
京南明社	八幡市・京田辺市・木津川市
亀岡・南丹地区	亀岡市・南丹市

祇園祭ゴミ分別回収(協賛)

赤い羽根共同募金(協賛)

歳末助け合い募金(合同)

清掃奉仕(京洛)

まち美化大作戦(中央)

ふれあいもちつき(中央)

清掃奉仕(右京)

バザー(山科)

藤森神社清掃(伏見)

福祉バザー(宇治)

ガラシャ祭(乙訓)

山崎合戦慰霊・清掃(乙訓)

●９～１０月の主要行事予定

９月１０日	脇祖さま報恩会	９：００～
１５日	釈迦牟尼仏ご命日	９：００～
２３日	秋季彼岸会	９：００～
１０月　１日	朔日参り・布薩の日	９：００～
４日	開祖さま入寂会	９：００～
１０日	脇祖さまご命日	９：００～
１５日	釈迦牟尼仏ご命日	９：００～
１９日	京都教会発足 55 周年記念式典	９：００～

●メッセージ

今年の豪雨、台風、地震など日本は世界に稀に見る自然災害の多い国です。なぜこれほどまでに、と思いますがそれぞれいろんな研究を行って、少しでも予知や軽減が出来るようになってきました。震度６でも日本ではビルは崩壊しませんが海外では粉々の映像を見ます。我々が得た技術を海外のお役に立てる、我々の苦しい経験は決して無駄ではない。そして絆の大切さ。日本人が伝えるべきことは沢山あるように思います。